

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ヘルプデスク業務委託費

文科省 GIGA スクール運営支援センター整備事業活用 国 1/2 県 1/2

- ・タブレットパソコンの修理費

県 10/10

(4) 類似事業の有無

- ・無し

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	24,000	生徒貸出タブレットパソコンの修理費、 (生徒貸与台数約 40,000 台の 2%相当) 800 台×30 千円
委託料	35,904	ヘルプデスク業務委託費 ・ 県立高校タブレットヘルプデスク・修理受業務 2 席以上 12 か月 タブレット修理受付、修理後の初期化作業 ・ 県立学校 ICT 技術アドバイザー派遣業務 2 席以上 12 か月 不具合対応時の 1 次切り分け、技術対応 県立学校 84 校から要請を受けて派遣 (年 150 回まで)
合計	59,904	

決定額の考え方

タブレット修理費の財源に、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針5 学びを支援する安全・安心な教育環境づくり

(26) ICT の環境整備と利活用の促進

(2) 後年度の財政負担

- ・タブレットパソコンの使用期間中は同額程度の財政負担が生じる。

(3) 事業主体及びその妥当性

- ・県が整備したタブレットパソコンの経費であり、県立学校の授業において

有効に活用されているため、本事業は、県負担が妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

記入しない項目欄は斜線を引いてください。

新規要求事業
 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 令和2年度に高校生一人一台タブレットPCを整備した。授業で整備した機器を利活用するにあたり、故障時に円滑に対応できるよう問い合わせ窓口および修理に関する付随作業を委託し、学習環境を維持するための環境を構築する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

整備したタブレットPCが故障した際に、必要な修理等ができる環境を維持するものであり、問い合わせ件数や修理件数などは目標値を決めることが困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和2	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 高等学校学習用タブレット専用ヘルプデスクの開設 高等学校学習用タブレットの修繕
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価)	令和2年度整備のタブレットPC約3万8千台を有効かつ円滑に利用するために重要な事業であり必要性が高い。
3	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	修理後の初期化作業を外部委託したことで、職員に特別な知識がなくても管理できるため、学校内の仕事分担に寄与している。
3	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価)	タブレットの故障時対応の事務手続きの簡易化及び修理後の初期化作業などを外部委託することで教員の機器維持に関する作業量の軽減している。
2	

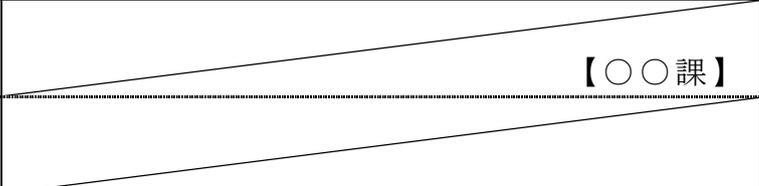
(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 経年劣化により故障率の上昇が見込まれるため、適宜見直しが必要となる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 活用が進み利用が高度化するのに伴い不具合の原因も複雑化しており、これらに対応できる技術者を学校に派遣し、原因の切り分け支援を行う。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	
	【〇〇課】